

園地内ライトトラップを利用した果樹カメムシ防除対策 マニュアル（簡略版）

山口県病害虫防除所
平成 24 年（2012 年）4 月
平成 27 年（2015 年）5 月改訂

果樹カメムシは年や場所によって飛来量や飛来時期が大きく違い、防除の判断が困難な害虫です（図 1）。ほ場の観察で侵入を確認することは困難ですが、ライトトラップを利用することで確実に園地への飛来を把握でき、効果的な防除が可能になります。

果樹カメムシの生活環

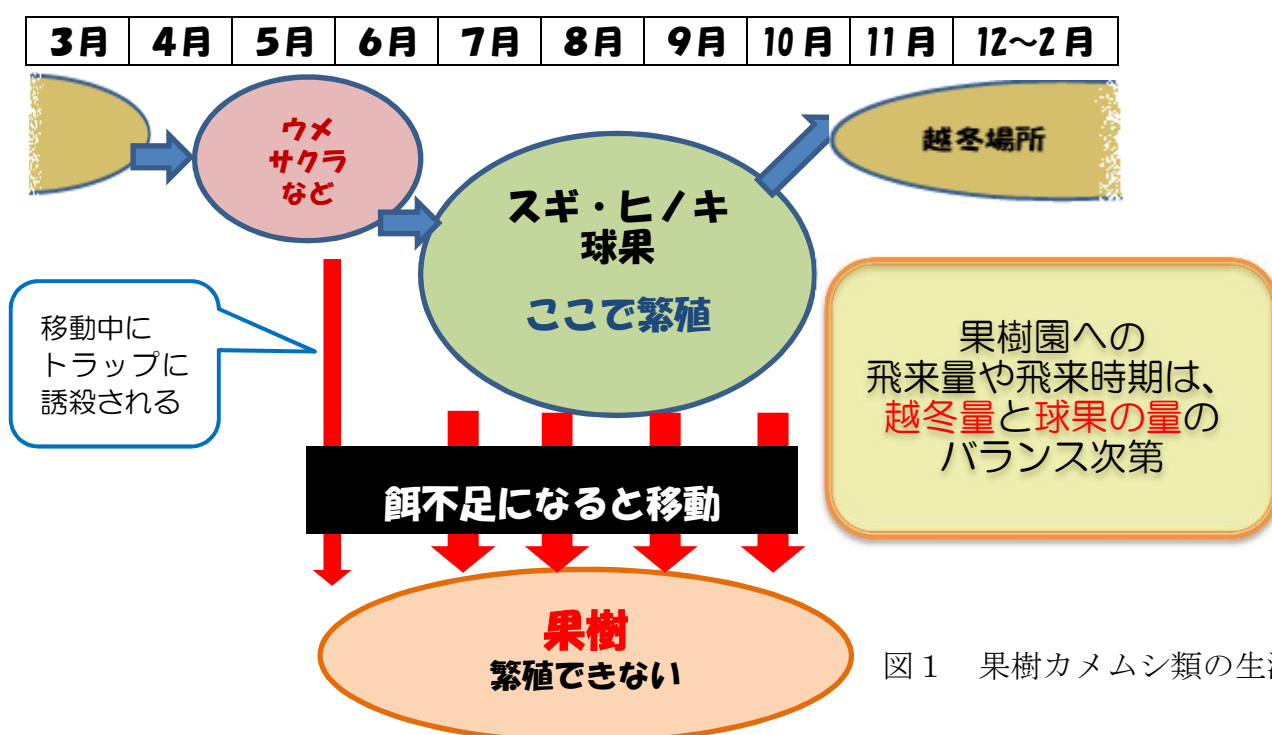


図 1 果樹カメムシ類の生活環

○園地内ライトトラップの設置方法

1 設置方法

(1) 使用機材

(株)光バイオ製 光防除器 GRC 型。

光源の 30W 丸形黄色蛍光灯を同形の昼白色
蛍光灯に交換して使用します。

(2) 設置場所

- ①100V 電源があり、園地内で毎日確認しやすい場所。
- ②園地内に電源がない場合は、園地に近い電源のある場所。
- ③ 1～2 ha に 1 台程度設置。



写真1 ナシ棚こつり下げたライトトラップ

(3)設置の仕方

- ①樹冠より下に設置。棚につり下げるか、鉢置きなどを使用します。(写真1、図2)
- ②トラップに光センサー付コンセントをつなぎ、夜間自動点灯するようにします。(図3)

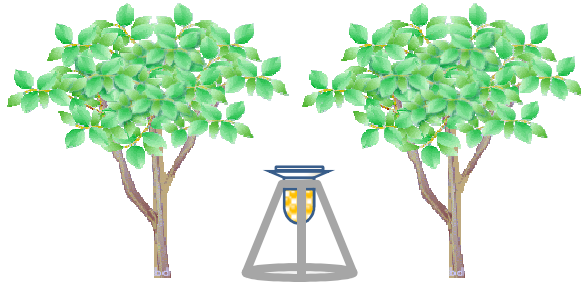


図2 鉢置きを使用して設置

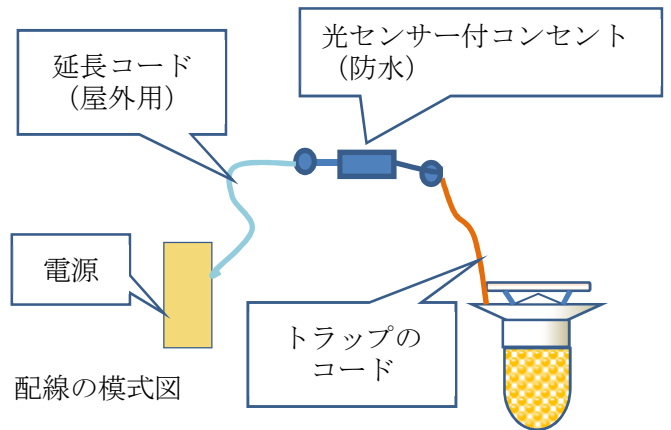


図3 配線の模式図

2 調査方法

ネットをトラップから外してバットや板の上に誘殺された虫を取り出し、果樹カメムシ(写真2)を探して頭数を確認します。



写真2 果樹カメムシ主要3種

(株)光バイオ 光防除器GRC型について

黄色蛍光灯で夜蛾(ヤガ)類を忌避するとともに、光に集まるカメムシなどの虫を吸引ファンで捕殺するものです。本来の使用法では10aあたり6~10台設置します。この光防除器の黄色蛍光灯を昼白色蛍光灯に取り替えてライトトラップとして使用します。

(参考) 価格 本体+光センサー 1台 15,000円程度
電気代 1時間あたり約1円

問い合わせ 株式会社 光バイオ
〒761-8042 香川県高松市御厩町1144番地
ホームページ <http://www.h-bio.net/>

3 ライトトラップの防除判断基準（果樹全般・6月～8月）

無袋栽培

6月から毎日トラップ調査

誘殺数 **5頭以上** ➡ 本格的な飛来開始時期と判断。防除を実施する。

有袋栽培

果実が肥大し袋に接し始めたら毎日ライトトラップ調査

誘殺数 **10頭以上** ➡ 防除を実施する。

防除後 (無袋・有袋)

薬剤の残効が切れる前にライトトラップ調査を再開。

一度、ネット内の虫を捨てて、翌日誘殺数を確認する。

(薬剤の残効期間は下記の表を参照)

誘殺数 **10頭以上** ➡ 防除を実施する。

誘殺数 **10頭未満** ➡ 引き続き毎日トラップを確認する。

○薬剤防除の留意点

1 使用する薬剤

果樹カメムシ類に対して多くの薬剤が高い効果を示します。発生量の少ない年は、ナシ、モモ、リンゴでは、シンクイムシ類など他の害虫との同時防除で十分です。

しかし、発生が多い場合、長期間に渡って飛来が続くので、残効性が長いことが必要になります。ピレスロイド系剤は殺虫効果、残効性ともに優れる薬剤があります。ネオニコチノイド剤は殺虫効果は高くありませんが、長期間被害を防止する効果があります。有機リン剤は殺虫効果は高いですが残効性はありません。同系統の薬剤でも種類によって効果に差がありますので、表を参考に薬剤を選択してください。

また、収穫直前まで5～6回の防除が必要になる場合があります。使用回数や使用日数などに注意し、計画的に薬剤を使用しましょう。

2 ハダニ類の多発に注意

カメムシ防除のためにピレスロイド剤やネオニコチノイド剤を多用すると、天敵類が少なくなり、繁殖の早いハダニ類が多発することがあります。発生状況に注意し、発生の少ないうちにダニ剤による防除を行いましょう。

表 カメムシ類に登録のある主な薬剤の使用方法和残効期間

(平成27年6月17日現在・山口県病害虫防除所作成)

系統※1	農薬名	希釈倍数	登録のある作物						残効期間※3 (被害防止効果)	
		収穫前日数	ナシ	モモ	リンゴ	カキ	ウメ	カンキツ		ビワ
		使用回数※2								
ネオニコチノイド 4A	アクタラ 顆粒水溶剤	2000倍	2000倍	2000倍	2000倍	2000倍	2000倍		10日程度 * アドマイヤー 顆粒水和剤は 10000倍の場合 残効がやや短く なる。	
		前日	前日	7日	3日	7日	14日			
		3回以内	3回以内	2回以内	3回以内	2回以内	3回以内			
	アドマイヤー 水和剤	1000倍	1000倍		1000倍					
		3日	3日		7日					
		2回以内	2回以内		3回以内					
	アドマイヤー フロアブル		5000倍				2000~ 5000倍	2000倍		
		3日				14日	7日			
		2回以内				3回以内	2回以内			
アドマイヤー 顆粒水和剤*	5000~ 10000倍	10000倍	5000倍	5000~ 10000倍		5000~ 10000倍				
	3日	3日	3日	7日		14日				
	2回以内	2回以内	2回以内	3回以内		3回以内				
アルバリン 顆粒水溶剤 スタークル 顆粒水溶剤	2000倍	2000倍	2000倍	2000倍	2000倍	2000倍	2000倍			
	前日	前日	前日	前日	(小粒核果類) 前日	前日	前日			
	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	(小粒核果類) 3回以内	3回以内	2回以内			
ダントツ 水溶剤	2000~ 4000倍	2000~ 4000倍	2000~ 4000倍	2000~ 4000倍	2000~ 4000倍	2000~ 4000倍	2000~ 4000倍			
	前日	7日	前日	7日	前日	前日	前日			
	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内			
ピレスロイド 3A	テルスター 水和剤	1000~ 2000倍	1000倍		1000~ 2000倍		1000~ 2000倍	1000~ 2000倍	10日程度	
		前日	14日		14日		前日	前日		
		2回以内	2回以内		2回以内		3回以内	2回以内		
	テルスター フロアブル	3000~ 6000倍	3000倍	3000倍	3000~ 6000倍	3000倍	3000~ 6000倍	3000倍		
		前日	前日	前日	3日	前日	前日	前日		
		2回以内	2回以内	2回以内	2回以内	2回以内	3回以内	2回以内※		
	MR. ジョーカー 水和剤	2000倍	2000倍	2000倍	2000倍		2000倍			
14日		前日	14日	14日		14日				
2回以内		2回以内	2回以内	2回以内		2回以内				
マブリック 水和剤20	2000倍			2000~ 4000倍		2000~ 4000倍				
	30日			30日		45日 ミカン21日				
	2回以内			2回以内		2回以内				
アグロスリン 水和剤	1000~ 2000倍	2000倍		1000~ 2000倍		2000倍		5~7日		
	前日	前日		前日		7日				
	3回以内	5回以内		3回以内		3回以内				
アーデント 水和剤	1000倍	1000倍		1000倍						
	7日	前日		7日						
	3回以内	3回以内		3回以内						
アーデント フロアブル	2000倍	2000倍		2000倍						
	前日	前日		前日						
	3回以内	3回以内		3回以内						
有機リン 1B	スプラサイド 水和剤	1500倍		1500倍	1500倍		1500倍	1~2日		
		(有袋)7日 (無袋)21日		30日前	30日		90日 ミカン14日			
フェニルピラゾール 2B	キラップ フロアブル	(有袋)3回以内 (無袋)2回以内		2回以内	3回以内		4回以内	7~10日		
		800~ 1000倍	800~ 1000倍	800~ 1000倍	800~ 1000倍					
		(有袋)14日 (無袋)21日	3日	30日	45日					
		6回以内	6回以内	3回以内	3回以内					
				2000倍	2000倍					
				14日	7日					
				2回以内	2回以内					

※1 数字と記号はIRAC(殺虫剤抵抗性対策委員会)による作用機構分類コード

※2 同一成分の薬剤(アドマイヤー、テルスター、アーデントの各薬剤)は使用回数を通算して数えること(散布の場合)。

※3 残効期間は他県、日本植物防疫協会およびメーカーのデータを参考に作成した。

あくまで目安であり、天候などの条件で短くなる場合がある。